

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	健生神沢こども発達支援室		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 25日		2026年 3月 19日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○従業者評価実施期間	2026年 2月 20日		2026年 2月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 23日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	様々な分野の資格をもつ職員（保育士・柔道整復師・言語聴覚士等）が互いの専門知識を活かし合って、子ども一人一人の特性に合わせた支援目標を立てることができる。	「月間指導計画」を作成し、各児童に対して毎月、支援内容やその結果の評価反省・次への目標を話し合い、支援の質の向上に務めている。	お互いの専門知識を吸収し合えるような話し合い・研修等を実施していきけるような体系の構築を思案中。
2	各職員の独自性を活かし、様々な視点に基づいて工夫した支援プログラムを提供できる。	各職員が考案・実施した支援内容に対して、他の職員のコメント（良かった点・改善の余地のある点・子どもの様子等）を寄せて、次に活かせるようにしている。	その日の活動について、どんな目的で何を行なうかを保護者にも伝わるように掲示等を工夫していく。
3	同法人グループの保育園（認可保育・企業主導型保育）と連携して、子どもの発達や試験プログラムに関する知識・ノウハウ等を提供し合ったり緊急時に応援を要請し合ったりできる体制がある。	共通の利用児童に関しては互いの責任者・担当者が情報交換をしっかりと行なって、連続性のある支援を提供できるように心がけている。	双方の全職員が共通する利用児童について互いの事業所での様子・過ごし方について周知できるようにしていく

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	周辺地域との関りが少なく、交流の機会がない。	これまで地域と関わりボランティアの受け入れ・提供をしたりしてこなかったため、経験やノウハウがない。	情報発信や情報収集に努めて、事業所の存在や活動を地域に知ってもらえるように努めていく。
2	保護者向けの研修や保護者どうしの交流の場がない。	・個別の家族支援・面談に重点を置いている。 ・スケジュールの調整が困難。	・需要の把握 ・保護者向けの研修や保護者どうしの交流の場を提供できるような体制づくりを模索していく。
3	活動内容、プログラム、ヒヤリハット報告など共有はできているが、それをもとにチーム連携を考えたり再発防止に向けた方策を検討したりする十分な時間を取ることが難しい。	全体で時間を確保することが難しいので後回しになってしまう	休憩時間やタイムスケジュールを管理して、時間確保に努める。 情報共有はしっかりとできているため、次にそれを生かす方法を検討していく

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	健生神沢こども発達支援室
------	--------------

公表日 2026年 3月 31日

利用児童数 15

回収数 10

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	9	1	0	0		
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	9	1	0	0		
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	10	0	0	0		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	10	0	0	0		
適切な支援の提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	10	0	0	0		
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	9	1	0	0		
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	10	0	0	0		
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	9	1	0	0		
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	10	0	0	0		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	9	1	0	0		
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	7	1	2	0	提携している保育園との交流の時間がもう少しあるといい	提携園と都合・スケジュールを上手く合わせられるように調整していく
保護者への説明等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	9	1	0	0		
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	10	0	0	0		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	2	1	6	1	親向けの研修があるといい	保護者に対して研修を実施できるような職員の育成に努める
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	9	1	0	0		
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	8	2	0	0	年2回の面談で助言的なアドバイスがあるといい	面談では保護者の悩み等も聞き、現状報告や今後の方針の伝達だけで終わらないように努める
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	10	0	0	0		
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	1	2	7	0	保護者同士の交流があるといい	開所時間中に保護者の都合を合わせるの難しいが、調整できる方法を考えていく

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	7	3	0	0		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	8	2	0	0		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	8	2	0	0	定期的に子どもの様子の写真・活動内容の報告があり、楽しく過ごせている雰囲気わかりやすい	個人情報の保護に気をつけながら、今後も発信をしていく
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	9	1	0	0		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	8	1	0	1		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	7	2	0	1		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	8	2	0	0		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	6	3	1	0		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	9	1	0	0		
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	9	1	0	0		
	29	事業所の支援に満足していますか。	9	1	0	0	いろいろな経験をさせてもらっている	今後も子どもたちが安全に楽しみながらいろいろな経験ができる内容を工夫していく

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		健生神沢こども発達支援室				公表日	2026年 3月 31日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		法令で定められた利用者数を順守			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		可能な限り多くの職員を配置			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		入口にスロープを設置			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		毎日計画的・組織的に清掃			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		別室をいくつか設置			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		・定期的にミーティングを開催 ・その日の支援内容について担当者が他の職員からコメントをもらう			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・アセスメントやモニタリングでも保護者の意向を確認			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・ミーティングや情報共有ツールを活用			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		×		外部評価については受けられるように法人で検討中		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		内外での研修を活用している			
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		・支援プログラムについて契約時に書面にて利用者に配布 ・事業所のHP、ステップサポートでも公開	事業所のわかりやすい場所に掲載し周知する		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		契約時および半年に一度、アセスメントを実施して支援計画に反映			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		担当者会議を開いて支援計画を作成			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○					
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		誰でも分かるよう簡潔な内容となっている			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○					
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		月間指導計画を関係職員で必ず作成している			

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		前月の反省を踏まえてプログラム内容を変えている		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		メンバーや状況に応じて課題や過ごし方を決めている		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		支援内容、役割分担を前日までに共有し確認している		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		振り返りと良かった点改善点など出し合っている		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		個別の様子、記録、体調等運営支援ソフトを利用し共有している		
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		6か月に一度支援会議を行いその中で見直している		
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○				
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○				
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		法人内保育園との交流、移行を行っている		
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○				
	28	(28～30は、センターのみ回答)		-	-		
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。		-	-		
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	-	-			
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	-	-			
	31	(31は、事業所のみ回答)			×		センターとの交流はほとんどない。相談支援員を通して増やしていきたい。
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。			×		
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○					
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○					
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。			×		外部評価については受けられるように法人で検討中	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			契約時に丁寧に説明している		
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○					

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		ペアレントトレーニングの取り組みを強化している	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		×		保護者会は現在は行っていないが過去に進学説明会や親子教室、食事会を開催していたため、再び実施する機会を考えている
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		迅速に対応している	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		ホームページやSNS等を通じて定期的に発信している	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		鍵付きの書庫に保管している	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		信頼関係を築き何でも話せる関係を築くようにしている	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		×		
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		毎月防災訓練を行っている	保護者への周知を徹底していく
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		毎月の防災訓練の中で行っている	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		アセスメントの際や適宜確認している	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		机を分けて食事をするなど対応している	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		外出時の危機管理マニュアル作成や研修を行っている	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		契約時に丁寧に説明している	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		発生した時点ですぐに作成し共有している	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		入社時と社内外の定期的な研修を行っている	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		指針を作成し対象者には計画に記載している		